

令和7年度 学校関係者(学校運営懇談会委員) 評価

令和8年1月21日(水)

場所 東小学校 会議室

【意見交換】(・委員から ○学校から)

<登下校について>

- ・集団登校はきちんとできているか。車での送迎が多いため、登校班での高学年と低学年の交流が少なく、集団登校の機能が果たされているかが心配である。また、地域での子供達のつながりが希薄になっているのも気がかりである。
- ・地域の子ども会活動がなくなってきている。地域で子供を見守る機会が少なくなってきている。田間には見守り隊があるが全ての地域の見守りはできない。各家庭に途中まで一緒に歩いてもらうなど、協力を得られないか。
- 子ども会活動は推奨していきたいが、活動している地域が少ないのが課題である。また、子供会以外でも、地域で子供達の安全を見守るためのコミュニティをどうするか考える必要がある。各家庭には協力をお願いしていきたい。

<学力について>

- ・全国学力・学習状況調査について学力が下がっているというニュースを見た。その結果を学校はどのように捉えているか。
- 全国の調査結果なので、本校の6年生の実態として照らし合わせるのは少々無理がある。また、毎年6年生のみの調査なので、児童の実態で課題が年度毎に変わるため、学校全体の課題として捉えるのも難しい。しかし、本校としては児童の実態と照らし合わせながら全国学力・学習状況調査の結果を分析し、次年度に生かせるように学力向上計画に反映させている。

<学校評価アンケートから>

- ・「言葉遣い、あいさつ」のアンケート結果について、保護者・児童と教職員の間で評価の差が大きい。中学校でも「言葉遣い、あいさつ」について課題となっている。学校内での「言葉遣い、あいさつ」について、先生方だけでは解決が難しいと思う。子供達や各家庭でも改善に向けて取り組んでほしい。
- ・あいさつについて、地域で子供と関わる機会が多いため、あいさつについて指導はしているが、目を見て気持ちのよいあいさつができる子供は少ない。家庭に目を向けると、あいさつができない子供の保護者もあいさつができていないと感じることが多い。地域でも伝えられるときに伝えていきたい。
- 結果の差については、教職員の「言葉遣い、あいさつ」についての到達目標が高いことも原因として挙げられる。元気で大きな声のあいさつができる児童もいれば、あいさつはできるけれど大きな声ができない児童もいる。それぞれ児童の個性に合わせることも大事である。しかし、場に応じた言葉遣いやあいさつは社会に出る上で大切なので、その価値観はもたせていきたい。
- ・「いじめのない学校」のアンケート結果について、いじめは実際に学校であるのか。また、いじめが起こっていることについて学校はどのように捉えているか。
- ・大人でもいじめはあるので、子供の生活環境でいじめがなくなることは考えにくい。学校は子供達のトラブルについて、迅速に対応していると感じる。また、児童の国際色が豊かになってきているので、その視点での取組はあるか。
- 学校としては「いじめ」を認知していくことが大事である。小さなトラブルも丁寧に聞き取りをして、重大事案に発展しないように対応していく。
- 国際色豊かになっていることについて、児童からの差別的な反応は少ない。これは、個別な支援が必要な児童に対しても同じことが言える。本校の合い言葉「みんなちがって、みんな『いいね!』」が児童に伝わり、多様性を認める心が育っている結果だと考える。

- ・学校評価アンケートの保護者や児童の自由記述欄について、学校としてのコメントが丁寧である。直接話ができなくても、アンケートを通して対話ができているように思う。
- アンケート結果に対して、真摯に受け止め、保護者・児童と対話ができるきっかけとなるようにしていきたい。

<授業参観について>

- ・保護者が教室には入れず、廊下にたくさんいる。窓際の方まで教室に入れるような工夫をしてほしい。
- 教室の人数や授業の内容によっては難しいが、先生方には伝える。
- ・子供達がどうしたら問題が解けるか、質問し合ったり、話し合ったりしている姿がとてもよかった。
- 児童が活躍している姿を見てもらえてよかった。

<施設について>

- ・体育館に暖房はつけられないか。
- 現状、体育館に暖房をつける計画はない。